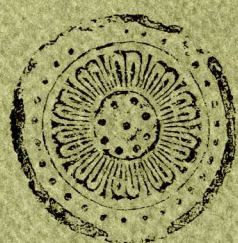


大分市歴史資料館年報



1988

は じ め に

豊後国分寺跡の史跡整備構想と、歴史資料館の建設計画が昭和58年に発足して、以来5ヶ年が経過し、同62年4月に国分寺の隣接地に開館いたしました本歴史資料館であります。その間、関係者の努力はもちろん公私多方面にわたる深いご理解とご協力によって完成することができたわけであります。資料館と一体であります史跡整備につきましても61年度から実施に入っており、すでに交歓の広場がほぼ完成し、次年度以降もひきつづき整備地域を拡大してゆく計画でありまして、国分寺の森を中心とする3万㎡の史跡公園が次第に姿を現しつつあります。

このような中で、常設展示の充実を目ざし、また新資料の収集と調査に努め、さらには各種講座の開催と地域の行事への参加など、市民の期待に応えるべき資料館づくりを心がけてまいりました。これからもこの方針は変わらないと思いますが、当資料館が市内に数多く所在する歴史的遺産の保存・継承の情報センターとして機能できるように内容整備を進めてゆくことも努力目標としてゆきたいと考えているところであります。

本年報では開館後1年間の事業経過と活動の概要をご報告しておりますが、市民の歴史資料館としてさらに一層の充実をはかるため広く各方面の皆様方のご支援とご指導をいただきたいと存じます。

昭和63年3月

館長 佐藤 興治

目次

資料館建設の経過	1
開館式典	1
昭和62年度の歴史資料館の活動	2
展 示	2
常設展示 特別展示	
資料調査	8
絵馬調査 南蛮文化・キリシタン関係資料調査	
教育普及活動	11
ふるさとの歴史講座 歴史を映画でみる会	
ジュニア講座 刊行物 資料の利用・貸出し	
資料収集	13
図 書	13
資料館利用状況	16
日 誌 抄	18
予 算	19
施設管理業務の概要	19
施設の概要	20
条例・規則	22
組織・職員	25
利用案内	25

資料館建設の経過

昭和58年 8月	大分市総合計画にもとづく史跡豊後国分寺整備事業の一環として歴史民俗資料館を建設することが発案される	昭和61年 2月 3月 11月	建物起工式および安全祈願祭を行う 展示実施計画完了 建物工事完了
昭和59年 1月	(仮称)大分市歴史資料館基本構想案作成	昭和62年 3月 4月	展示工事完了 開 館
3月	市議会で基本構想が承認される		
11月	建設予定地の発掘調査を実施		
12月	関連道路整備案が市議会で承認される		
昭和60年 3月	資料館建設費の一部を計上、市議会で承認される		
6月	建設地を南側に変更し、発掘調査を実施		
7月	資料館建物基本設計完成		
10月	展示基本計画完成、建物実施設計完了		
11月	造成工事に着工		
12月	資料館建設費を60年、61年の継続費として計上、市議会で承認される 資料館本体工事契約		



開館式典

大分市歴史資料館の開館式典は昭和62年4月15日午前9時半から、文化庁関係、国会議員などの来賓をはじめとする約500人が出席して、資料館東側の交歓の広場を会場にして開会された。

式典は、佐藤益美市長による式辞、市議会議長の挨拶につづいて、工事報告がなされ、土地提供者、建築工事関係者、展示工事関係者、資料の寄贈・寄託ならびに協力者の代表に感謝状が贈呈されたのち、文化庁

記念物課長、大分県知事の祝辞が披露された。

式典終了後、地元国分地区の有志の皆さんによる祝いの神楽が舞われ、午前11時より歴史資料館正面玄関で奈良国立文化財研究所長、大分県知事、大分市長、大分市議会議長、教育長、地元代表、賀来小学校の児童の代表によるテープカットに移り、佐藤興治歴史資料館長の案内による観覧が始まり、盛会のうちに式典は終了した。



昭和62年度の歴史資料館の活動

展 示

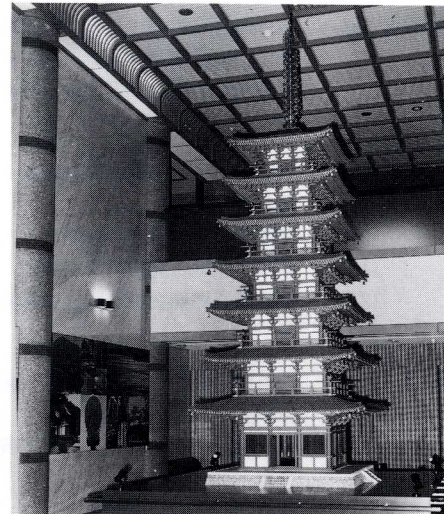
常設展示

当館は、史跡豊後国分寺跡に隣接し、サイトミュージアムとしての性格をもつことから、国分寺関連の展示を中心テーマとしながら大きく7部門から構成される。

展示は、各種の模型・複製品を多用し、立体的かつアクセント効果をもたせている。また当館独自の試みとして展示ケース内に世界・日本のイラスト年表で全時代にわたって対照できるようにし、史・資料についての時代的・空間的理解が深められるように工夫している。

- ① 国分寺七重塔
- ② 大分の石仏たち
- ③ 大分のあけぼの
- ④ 国分寺と律令の時代
- ⑤ キリシタン大名・大友宗麟と中世
- ⑥ 近世の府内
- ⑦ 暮らしの道具と民俗

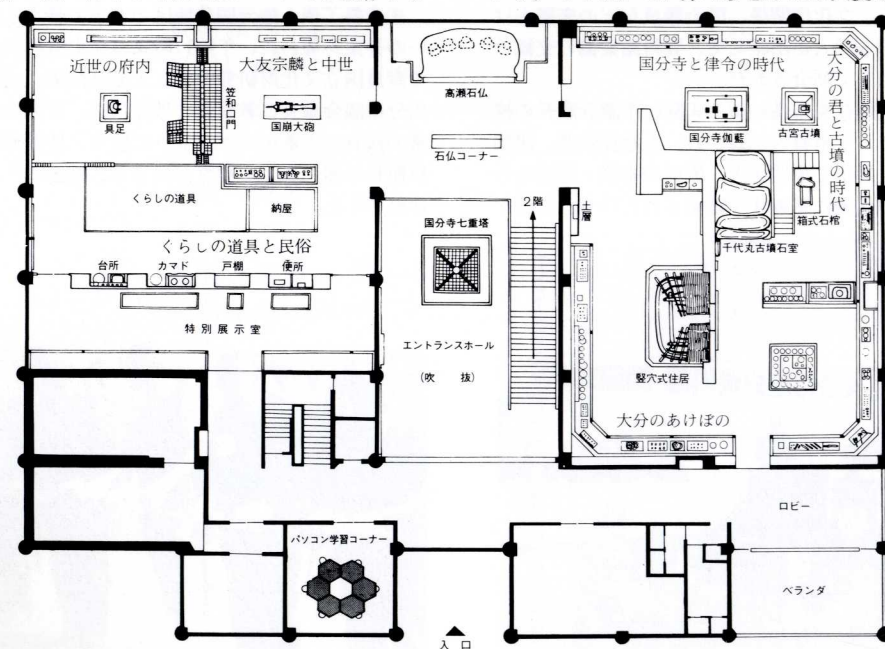
ホール展示 1階ホールには、国の華とされた奈良時代の豊後国分寺七重塔の復原模型がある。奈良・東大寺七重塔の高さ（記録による90m）と一辺長（16.3m）との比率から総高67mを求めて、建物各層の高さや屋根・扉・窓・軒下の斗拱などについては現存する



豊後国分寺七重塔

奈良時代の塔を参考にして10分の1に製作したものであり当館を代表する展示品である。その他大分市を象徴する自然や史跡・文化財などを組合わせたモザイクパネル、市内遺跡分布模型などがある。

2階ホールには、正面に国指定史跡である高瀬石仏の複製品がある。幅4m奥行1.5mほどの石窟のなかに大日如来を本尊とする5体の磨崖仏が彫り込まれている。そのなかで、赤く彩色された火髪をもち、蛇を



身体に巻きつけた深沙大将像はよく知られている。このコーナーでは磨崖仏文化の頂点にある大分県のなかにあつて意外と忘れられがちな大分市の石仏を写真パネル、地図などで紹介している。

第1展示室 ここでは、石槍や弓矢で鳥や獣を追い、山や海、川の幸を求めて生活した旧石器・縄文時代、米づくりのムラがひろがり青銅器や鉄器を使った弥生時代、さらに海部や大分の君に代表される古墳時代、国府が置かれ国分寺が建てられた奈良・平安時代までの歴史を、県内・市内の考古資料を中心に展示している。

模型・複製品には、朝地町田村谷遺跡の住居跡をモデルとした縄文後期の石組炉をもつ復原住居・人物や動物三角文、四角文などの線刻画のある千代丸古墳石室、九州唯一の石棺式石室をもつ古宮古墳、100分の1の豊後国分寺伽藍模型、浜遺跡出土細形銅剣、京ヶ尾出土の中広銅矛、亀甲山古墳出土三角縁神獣鏡などの他に、土層や横尾貝塚貝層剥ぎ取りのパネル、浜遺跡出土の箱式石棺実物展示などがある。

展示室の構成は次のとおりである。

大分のあけぼの

- 1) 大分の土層
- 2) ステゴドン象化石
- 3) 狩人と旧石器時代
 - a. 石材を探す
 - b. 石器の種類と使い方
- 4) 土器の出現と縄文時代
 - a. 縄文時代の四季
 - b. 縄文人の食物
 - c. 炉と集石
 - d. 縄文人の生活
 - e. 縄文土器の移り変わり
 - f. 横尾貝塚
 - g. 縄文時代の墓
- 5) 米づくりと弥生時代
 - a. ムラとクニの成立
 - b. 弥生文化のなかの東九州
 - c. 大分の青銅器
 - d. 武器としての青銅器
 - e. 宝器としての青銅器
 - f. 小銅鐸のまつり
 - g. 弥生土器
 - h. 弥生時代の墓
 - i. 大分市の弥生時代の墓
- 6) 大分の君と古墳時代
 - a. 古墳の出現
 - b. 大分（豊後）の古墳変遷
 - c. 亀甲山・上ノ坊古墳



大分の石仏たち



大分のあけぼの



大分の君と古墳時代



国分寺と律令の時代

- d. 大分と海部の前方後円墳
- e. 伝統的箱式石棺をもつ古墳
- f. 大型石棺をもつ古墳
- g. 横穴式石室をもつ古墳
- h. 横穴墓の盛行
- i. 古墳時代の生活
- j. 最後の石室古墳（古宮古墳）

国分寺と律令の時代

- a. 仏教文化の導入
- b. 大分の初期寺院
- c. 国分寺
- d. 豊後国分寺
- e. 九州の国分寺瓦
- f. 律令制のしくみ
- g. 地蔵原遺跡

第2展示室 中世・近世そして民俗の各資料を展示している。中世の部屋には、中央に大友宗麟がポルトガル領マカオより輸入し島津軍との戦に使ったとされる「国崩し」の大砲（複製品）、日本人としてはじめてヨーロッパを見聞した天正遣欧少年使節団肖像画（複製）、さらに市内の遺跡から出土した生活遺物（輸入陶磁器・茶臼・硯など）などがある。

絵図をもとにして復原された笠和口門（府内城西門）をくぐると江戸時代である。小藩分立の状況、歴代府内藩主、職人や商人、農民のくらしなどが通観できる。なかでも、浜の市見物にいく府内藩主（大給松平家）の行列を描いた御城下絵図は圧巻である。四重の天守がそびえる府内城、塩九升口門、堀川口門と呼ばれた城下への出入口門、住吉社、西應寺などの神社や寺、蓬萊山、笠結島など府内近郊の景観、武士や町人が描かれ、江戸時代中期（18世紀中頃）の府内の町を知る貴重な資料となっている。徳川家康の孫で越前（福井）の大名であった松平忠直（一伯公）が府内に流されてくる事件を扱った小コーナーもあり、その他に府内藩主の具足、府内城下と現市街地との比較パネルなどがある。

常設展示の最後は、民俗コーナーである。町や村、山のくらしなど今はほとんど使われなくなった竹や木の道具をステージにオープン展示している。また、民家の台所、かまど、戸棚、便所、納屋を復原し、むかしの民家の状況を再現している。

展示室の構成は次のとおりである。

キリシタン大名・大友宗麟と中世

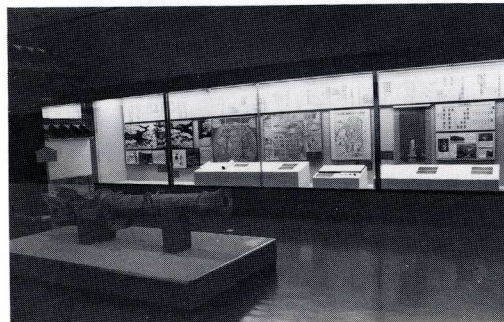
- a. 大友氏の繁栄
- b. 大友氏の領域
- c. 戦国時代の府内の町
- d. 大友宗麟とキリシタン文化
- e. 天正遣欧少年使節

- f. 宮苑遺跡と中世の荘園
- g. 人々の生活

近世の府内

- a. 入り組む諸領
- b. 府内の藩主
- c. 府内藩のしくみ
- d. 府内城下絵図
- e. 農民のくらし
- f. 商人のくらし
- g. 職人のくらし
- h. 松平忠直（一伯公）

くらしの道具と民俗



大友宗麟と中世



近世の府内



くらしの道具と民俗

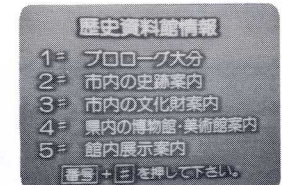
NM情報スポット NM情報（ニューメディア情報サービスシステム）とは、市内の史跡や文化財、資料館の展示案内などの情報を光ディスクによる映像（動画と静止画）とプリントで自由に取出して利用できるシステムである。ビデオテープにくらべて、検索が瞬時であり容量が大きく負荷もきわめて小さいことが特徴である。

情報のプログラムは次のとおりである。

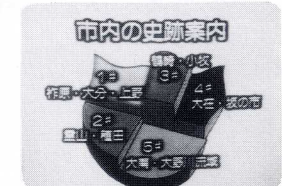
- ① プロローグ大分（豊後の自然と歴史・動画）
- ② 市内の史跡案内（市内を5地区にわけて、写真と小解説で構成する。静止画）
- ③ 市内の文化財（建造物、石仏と磨崖仏、仏像、石造物、山城、キリシタン関係遺跡、古墳、考古遺物、民俗芸能、旧街道の諸項目を写真と小解説で構成する。静止画と動画）
- ④ 県内の博物館、美術館案内（各施設を県北部、中部、南部ごとに紹介する。静止画）
- ⑤ 資料館展示案内（1. 七重塔と市内の石仏、2. 大分のあけぼの、3. 国分寺と律令の時代、4. 大友氏の中世と近世の府内、5. くらしの道具と民俗動画）

パソコン学習 学習室には、6台のパソコンを設置している。当館製作のオリジナルソフトで歴史クイズを解答しながら、郷土の歴史や民俗を学べる。遺跡と遺物のクイズと郷土の歴史クイズの2分野があり、それぞれ初級・中級・上級の3コースを選択することができる。設問、ヒント、解説画面がカラーディスプレイ上に展開していき、最後に点数が表示される。各5問、計15問が一つのソフトに収められている。なお、解答率、利用者の年齢、利用者数などが集計可能である。

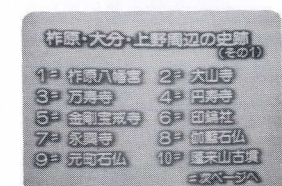
パソコンコーナーの利用状況（昭和62年4月15日～昭和63年4月14日）は、遺跡と遺物のクイズが利用者総数 4,177人、小学生以下58%、中・高校生10%、大人32%郷土の歴史クイズが、利用者総数 4,138人、小学生以下60%、中・高校生10%、大人30%となっている。



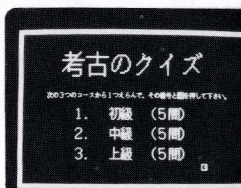
1



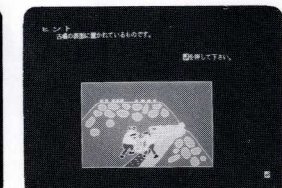
2



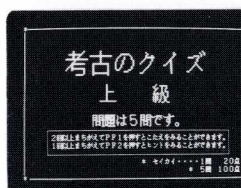
3



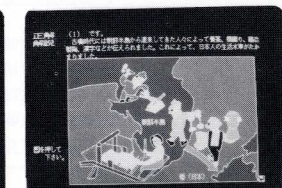
1



4



2



5



3



6

資料調査

絵馬調査

第2回・秋季特別展「絵馬展」開催に向けた予備調査として、市内を中心とした絵馬の調査を行った。まず市内にある神社を確認することから始め、6月の中旬から約1ヵ月間、各神社を実地にあたり、最終的には市内216社中105社の調査を行い、57社約500点の絵馬を確認することができた。

絵馬の画題は、説話や芝居・歌舞伎で人気のある場面やエピソードを描いた武者絵が52点（22社）で最も多く、次に伝統的に馬を描いたものが21点（12社）、三十六歌仙図が16点（16社）とこれに次ぐ。しかし、確認神社の件数では三十六歌仙図が馬図をしのいでいた。

武者絵・馬図に様々な図柄が見られたのに対し、三十六歌仙図のほとんどは藤原公任が選んだ歌人と歌が描かれていた。ただ、田原神社の歌仙図は、構成メンバーの一部が異なり、赤染衛門や中納言行平が描かれている。しかも画工の名（安藤瀬川）や奉納された年代（安政4年）がわかる例でもあった。また、市内・片面の大床神社には、鏡で写したように左右が逆になった字で歌を記したためずらしい歌仙図が奉納されており、その見事な特技に驚かされた。

市内に残る最も古い絵馬は、宝暦4年(1754)に柞原八幡宮に奉納された「当社放生会御幸之図」で、当時の御幸のありさまや祭礼市の露店の様子が描かれている。歴史・民俗資料として貴重であるが、剝落やカビによる傷みが著しく、細部にわたる観察が困難な状況にある。

また同社には、「森山流算術測量」として測量の問題とその答までの筋道を書いた、一般に「算額」と呼ばれるものが奉納されている。数学の問題とその解答方法を書いた算額には図形や「算木」が描かれる場合が多い。横瀬の林神社にも図形（「梅鉢図」）や算木



参勤交代船入図 (剣八幡宮)



調査風景

を描いた額があるが、墨書の残りが悪く内容が読み取れなかった。

鶴崎の剣八幡宮には、肥後細川藩の参勤交代の船団が入港する様子を描いた絵馬が奉納されている。これは寛政10年（1798）に橋本善左衛門昌喜・鈴木喜右衛門清秀と「世話人」の上田清之進・加賀左左衛門・明石彦十郎石松茂兵衛が奉納したもので、明治22年に補修され、今日に至っている。同じ図柄の絵馬が鶴崎大神宮（現在は鶴崎公民館）と大在の住吉神社にもあり、共に明治以降に剣八幡宮のものを模して作られていた。多くの絵馬が奉納されて朽ちはてていく中で、大切に受け継がれていった例といえる。

今回の調査では色々な絵馬との出会いがあった。時間的な制約のため悉皆調査を行うことができず、しかも寺院を調査の対象に加えなかったため、見落とししたものも多くあったと考えられる。今後は、これらの絵馬の調査を地道に進め、先人たちが残した貴重な遺産として、保存の問題も含めて見直していく必要があらう。



三十六歌仙図（大床神社）

大分市内の絵馬一覧（調査分）

(50音順)

神 社 名	地 区	神 社 名	地 区
浅 草 神 社	木ノ上	轟 社	上判田
天 祖 神 社	岡 川		馬 (1)、武者 (1)、三十六歌仙 (1)
恵 美 須 社	勢 家	長 浜 社	武者 (1)、立雛 (多数)
大 分 社	羽 田	丹 生 神 社	武者 (2)、動物 (1)、立花 (2)、その他 (5)
大 津 神 社	口 戸	八 丸 神 社	武者 (1)
大 床 社	賀 来	八 幡 社	相撲番付 (1)
大 原 神 社	上戸次	八 幡 社	武者 (1)、文人武人 (1)、動物 (1)
鬼 神 社	白 木		武者 (1)、文人武人 (1)、動物 (1)
賀 来 神 社	賀 来	八 幡 社	武者 (1)、三十六歌仙 (1)
		八 幡 社	竹 中
加 茂 神 社	細	林 神 社	横 瀬
楠木生八幡社	下戸次		算額 (2)、川柳 (1)、相撲番付 (1)
熊 野 社	中判田	火 王 宮	生 石
		日 枝 社	岡 川
熊 野 神 社	木ノ上	日 吉 社	宮 苑
熊 野 神 社	津 守	日 吉 神 社	木 田
剣 八 幡 社	鶴 崎		武者 (5)、文人武人 (1)、故事伝説物語 (1)、祭 (1)、船 (1)、その他 (6)
霜 凝 神 社	下 郡	鉾 神 社	葛 木
		曲 八 幡 社	曲
松 栄 神 社	荷揚町		武者 (3)、動物 (1)、その他 (2)
神 明 社	市		馬 (3)、動物 (3)、和歌 (1)、漢詩 (1)、故事伝説物語 (1)、おがみ絵 (1)、その他 (1)
神 明 社	上戸次	御手洗神社	松 岡
菅 原 神 社	岡 原		馬 (1)、武者 (2)、文人武人 (1)
住 吉 社	住吉町		三十六歌仙 (1)、船 (2)、立花 (2)、故事伝説物語 (1)、その他 (2)
住 吉 神 社	政 所	八 坂 神 社	小池原
諏 訪 神 社	宮 苑	弥 栄 神 社	上 野
大 明 神 社	上宗方		故事伝説物語 (1)
高 尾 神 社	宮 尾	八 柱 神 社	屋 山
		八 鉾 社	高 瀬
田 原 神 社	田 原	柞 原 八 幡 宮	八 幡
			馬 (6)、武者 (11)、文人武人 (4)
鶴 神 社	端 登		祭礼 (1)、算額 (1)、武術 (4)
鶴 崎 大 神 宮	鶴 崎		和歌俳諧など (6)、故事伝説物語 (4)、立花 (2)
天 神 社	下戸次	若 宮 神 社	木ノ上
天 満 社	丸 亀	若 宮 八 幡 社	上 野
天 満 社	松 岡	若 宮 八 幡 社	森
天 満 神 社	高 瀬		馬 (1)、武者 (3)、動物 (1)、立花 (1)、故事伝説物語 (1)、その他 (1)
轟 神 社	下判田		

南蛮文化・キリシタン関係資料調査

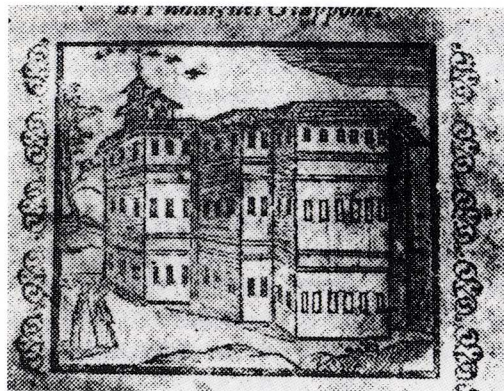
毎年常設展示の充実をはかるとともに、将来の特別展開催準備のための資料調査をおこなうことにしている。今年度は、大友関係資料調査の一環として南蛮文化・キリシタン関係遺物の調査を実施した。

調査地および調査資料

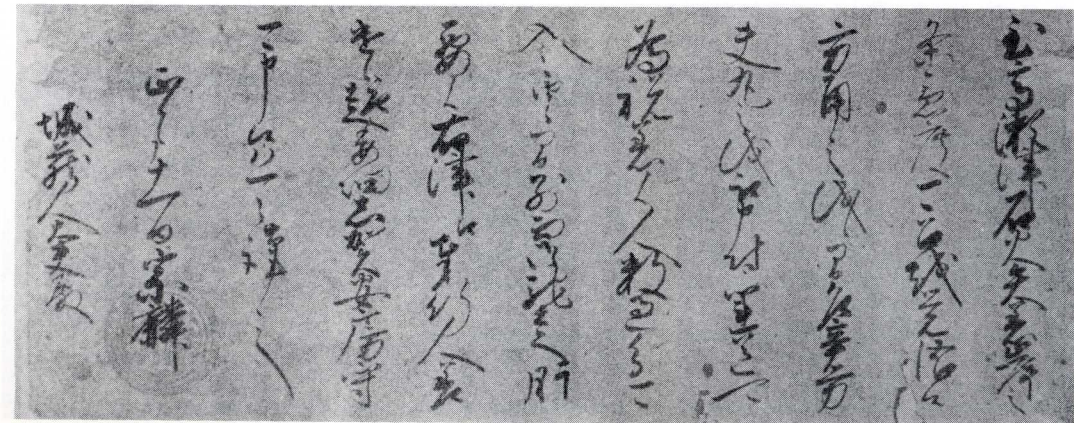
- ・天草切支丹館（熊本）
経けし壺など天草地方かくれキリシタン資料
- ・長崎市立歴史民俗資料館（長崎）
末次船（朱印船）絵馬
- ・日本二十六聖人記念館（長崎）
大分市丹生出土ロザリオなどキリシタン遺物
- ・長崎市立博物館（長崎）
南蛮屏風複製
- ・外海町立歴史民俗資料館（長崎）
雪のサンタマリア像
- ・松浦史料博物館（長崎）
キリシタン追放令、踏絵の模写（江戸時代）
唐船絵図、大友具足（大友宗麟よりの贈答品）
- ・南蛮文化館（大阪）
「IHS」銘入り蒔絵書見台、南蛮屏風、府内コレジオの図、大友宗麟書状
- ・堺市博物館（大阪）
南蛮漆器
- ・京都大学文学部博物館（京都）
フランシスコ銘蒔絵鞍、マリア十五玄義図
- ・神戸市立博物館（兵庫）
南蛮屏風、林若樹旧蔵切支丹遺物一括
- ・国立歴史民俗博物館（千葉）
火縄銃、南蛮屏風
- ・仙台市博物館（宮城）
支倉常長関係遺物（ローマ市民権証書、カルサン他）



雪のサンタマリア像（外海町立歴史民俗資料館）



府内コレジオの図（南蛮文化館）



大友宗麟書状（南蛮文化館）

教育普及活動

当館の大きな課題である“参加する資料館づくり”をめざして、今年度は高校生以上を対象にした「ふるさとの歴史講座」、「歴史を映画で観る会」、小中学生対象の「夏休みジュニア講座」を開講した。

ふるさとの歴史講座

高校生以上を対象にした郷土史講座である。考古、歴史、民俗の3コースがあり、昭和62年7月からそれぞれ毎月1回おこなった。

イ) 考古のコース

日 時：毎月第1日曜日、午前10時～11時30分

講 師：橘 昌信（別府大学教授）

佐藤 興治（当 館）

玉永 光洋（当 館）

テーマ

- 62年 7月 市内の時代別遺跡の様相 (玉永)
- 8月 大分の旧石器時代 (橘)
- 9月 大分の縄文時代 (橘)
- 10月 別府湾地域と弥生時代 (玉永)
- 11月 倭国大乱と大分 (玉永)
- 12月 首長の出現と前期古墳 (玉永)
- 63年 1月 大分の国造と後期古墳 (玉永)
- 2月 豊前・豊後の古代寺院 (佐藤)
- 3月 地方官衙と集落遺跡 (佐藤)

受講者38名

ロ) 歴史のコース

日 時：毎月第2日曜日、午前10時～11時30分

講 師：佐藤 興治（当 館）

武富 雅宣（当 館）

長田 弘通（当 館）

テーマ

- 62年 7月 奈良の都と地方 (佐藤)
- 8月 律令制とくらし (佐藤)
- 9月 仏教と信仰 (佐藤)
- 10月 中世の土地制度—大分の荘園— (長田)
- 11月 大友氏の発展 (長田)
—守護から戦国大名へ—
- 12月 中世府内の町 (長田)
- 63年 1月 近世の開発と大分の井路 (武富)
- 2月 近世の町 (武富)
—府内城下町を中心にして—
- 3月 豊後の農民一揆 (武富)

受講者61名

ハ) 民俗のコース

日 時：毎月第3日曜日、午前10時～11時30分

講 師：小玉 洋美（県立日出高校教諭）

小泊 立矢（大分県史編さん室調査員）

野崎 一郎（県教育センター主任研究員）

若杉 昌昭（県立大分舞鶴高校教諭）

テーマ

- 62年 7月 大分の民俗芸能 (小玉)
- 8月 三弥長者伝説 (若杉)
- 9月 大分における水と木伝説 (若杉)
- 10月 絵馬について (小泊)
- 11月 人の一生 (野崎)
- 12月 農耕儀礼におけるまつりと芸能 (野崎)
- 63年 1月 ハレの生活—衣と食— (小泊)
- 2月 住まいと生活 (小泊)
- 3月 路傍の神仏 (小泊)

受講者32名



歴史を映画でみる会

市民に歴史に親しんでもらうため、毎月1回歴史や文化財をあつかった映画を上映する会である。今年度は市視聴覚センターより借用の16ミリフィルムで、歴史の流れを概観できるような構成とした。

日 時：毎月第4土曜日、午後2時～3時

実施日	上 映 フ ィ ル ム	参加人数
8/ 8	大むかしの生活 日本のあけぼの	76名
9/ 9	古墳の時代 やまとの朝廷	52名
10/24	遣唐使—海外文化の移入— 平安の貴族	35名
11/21	鎌倉の武士 蒙古の来襲	94名
12/19	武家社会と鎌倉の文化 金閣と義満	61名
1/23	安土・桃山の社会と文化 キリシタンとヨーロッパの文化	57名
2/20	東海道の旅 元禄文化	60名
3/19	開 国 明治維新への道	38名

ジュニア講座

夏休み、歴史を身近に体験することをねらいにした小中学生対象の講座で、下記のとおり実施した。

内 容：体験発掘と土器づくり

日 程：8月18日～20日・29日（計4日間）

時 間：午前10時30分～午後2時

参加者：20名（小学校2年生～中学校1年生）

（130名の応募者の中から20名を先着順で選んだ）

準備物はほとんど手作りの物でまかなったが、粘土は市内坂ノ市の瓦用粘土で調整済みの物を使用した。

本年度は初年度ということもあり、講座の準備段階では学芸係全員で土器を作り、数回の試し焼きを行ない、失敗をかさねながら、土器づくりのノウハウを体験的につかんだ。

・8月18日（1日目）

開講式、オリエンテーション、館内見学、「大昔の生活」、粘土をねる

・8月19日（2日目）

大分市内下郡遺跡で体験発掘の予定であったが、雨のため中止し、遺跡見学会として弥生土器の表面採集をした。

・8月20日（3日目）

土器づくり

・8月29日（4日目）土器を焼く、閉講式

燃成時に心配していたワレも少なく、参加者は各々2～4個の土器を作り、来年も参加したいと言う声が聞かれる中で第1回のジュニア講座は終わった。

体験発掘や土器づくりは参加者の年齢に関係なく、楽しみながら歴史を身近に体験できるよい企画であった。映画「大昔の生活」は土器の作り方や、使用法など縄文時代の人々の生活を具体的に映像化しており、体験発掘とあわせて土器に対する興味をさらに高めたと思われる。

ジュニア講座では歴史の学習も大切であるが、参加者に夏休みの楽しく有意義な思い出を提供することが重要であると考えている。その意味では本年度は一応の成果を得たのではないかとと思われるが、130名の応募に対して20名しか参加できなかったことは今後の課題である。

刊 行 物

歴 史 資 料 館 概 要

第2回特別展 絵馬展示図録

歴 史 資 料 館 ニ ュ ー ス 1

歴 史 資 料 館 ニ ュ ー ス 2

歴 史 資 料 館 だ よ り 1

歴 史 資 料 館 だ よ り 2

常設展示図録おおいの歴史と文化



資料の利用・貸出し

1) 資料の利用提供

収蔵資料の調査、撮影、写真貸与、印刷物掲載等の利用提供は研究者の調査1件、博物館等のパネル複製品製作2件、印刷物掲載9件であった。

2) 資料の貸出

収蔵資料の貸出しは、大分市農業協同組合への農具20点1件であった。

資料収集

寄贈資料

- いろは活字（佐古川勇男氏）
- そろばん他1点（後藤格馬氏）
- かつら（山本太郎氏）
- 立葵紋屋根瓦（吉田邦雄氏）
- 竹スキー一式（工藤愛助氏）
- 田草取り機（関金次郎氏）
- 脱穀機（後藤豊吉氏）
- 木挽鋸（佐藤友平氏）
- 馬車他4点（三宮孝之氏）
- 大分県管内旧藩諸領地区図（姫野佑輔氏）
- ラジオ他1点（鹿島正一氏）
- 鏡台他1点（二宮昭二氏）
- ドウコ（藤塚昇氏）
- 鉄鍋（石川正司氏）
- 縄文時代磨製石斧3点（生野安行氏）

寄託資料

- 火縄銃（八坂利雄氏）
- 二人引き割鋸他6点（佐古川勇男氏）
- 熊野権現縁起絵巻他16点（熊野神社）

複製品製作

- 深鉢（縄文・大石遺跡出土）
- 椀（縄文・大石遺跡出土）
- 勾玉（縄文・大石遺跡出土）
- 小玉（縄文・大石遺跡出土）
- 管玉3点（縄文・大石遺跡出土）
- 深鉢（縄文・大石遺跡出土）
- 尖底土器（縄文・二日市洞穴出土）
- 深鉢（縄文・小池原遺跡出土）
- 挾状耳飾り（縄文・粉洞穴出土）
- 骨製かんざし2点（縄文・粉洞穴出土）
- 骨製釣針（縄文・竜宮洞穴出土）
- 貝輪2点（古墳・世利門古墳出土）

図 書

寄贈図書

- 菅生台地と周辺の遺跡 竹田市教育委員会
- 朝鍋遺跡 "
- 史跡岡城II "
- 宇佐弥勒寺IV 大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
- 大分県の諸職 "
- 豊後田染荘の調査 "
- 職人文化の世界 "
- 大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館ニュース 16 "
- 神谷窯跡 佐賀県伊万里市教育委員会
- 馬立場遺跡 "
- 福岡市の文化財一考古資料一 福岡市教育委員会
- 福岡市立歴史資料館研究報告 第11集 福岡市立歴史資料館
- 京都市歴史資料館紀要 第4号 京都市歴史資料館
- 広島市郷土資料館資料解説書 第2集 広島市教育委員会
- 広島市郷土資料館年報 第2集 "
- ひろしま郷土資料館だよりNo.16 広島市郷土資料館
- 日田地区遺跡群発掘調査概報II III 日田市教育委員会
- 「北九州の横穴墓」展 北九州市立考古博物館
- 鳥取埋文ニュースNo.17、18 鳥取埋文文化財センター
- 博物館だよりNo.13 信濃町立野尻博物館
- 博物館だよりNo.2 大野郡緒方町下自在歴史民俗資料館
- 長野市立博物館だよりNo.7～9 長野市立博物館
- 稲を伝える人々その生活と墓制一 "
- 森の文化 "

- 文全協ニュースNo.97 文化財保存全国協議会
- 埋蔵文化財速報と資料紹介No.44、45 京都考古刊行会
- 鹿博だよりNo.18、19 鹿児島県立博物館
- 沖博協だより第13号 沖縄県博物館
- 郷土吉井創刊号 吉井町立歴史民俗資料館
- 「よみがえる中世の町 草戸千軒」 新市町立歴史民俗資料館
- 第9回企画展 はこぶ・おくる "
- ふるさとの自然と歴史 188号～195号 社団法人 歴史と自然をまもる会
- 中津市加来遺跡群 大分県教育委員会
- 中津市伊藤田地区遺跡群 "
- 大分県の近世社寺建築 "
- 京都市域の群集墳 京都市考古資料館
- 京都市考古資料館年報 昭和60、61年度 "
- 豊津町文化財調査報告書 第5集 豊津町教育委員会
- 呉町庵寺発掘調査報告書 第4集 山口大学文学部考古学研究室
- 調査報告集資料一覧 第1～8集 国立民族学博物館情報管理施設
- 国立歴史民俗博物館研究報告 13～15 国立歴史民俗博物館
- 歴博22、23、25、26 "
- 壬申の乱 飛鳥資料館
- 市立市川歴史博物館年報 1987 市立市川歴史博物館
- 九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報 6、7、9 佐賀県教育委員会
- 地域総合研究 第15巻第1号 鹿児島経済大学地域総合研究所
- 北部九州の装飾古墳とはにわ展 飯塚市歴史資料館
- 研究小報 第9集 大分市鶴崎地区文化財研究会

大分市歴史資料館年報

1988

発行日 昭和63年12月1日

編集・発行 大分市歴史資料館

大分市大字国分960番地の1

〒870(0975)49-0880
